

SORA

web magazine 2016.sep. vol.77

Moalboal

philippines

Travel

Photo & Text : Yasuaki Kagii

街全体で遊べるモアルボアルの魅力

セブ島に位置する素朴な町・モアルボアル。フィリピンの良き田舎でありながら、ヨーロッパによって開拓されたこの町は、どこかお洒落でノスタルジック。海外旅行にきた気持ちを満足させてくれる。海中世界はサンゴが美しく、そこに集まるお魚たちも元気よく泳ぐ。また、モアルボアルの代名詞となった雲海のような魚群の群れも健在。マクロのポイント「ゴビー」に行けば、可愛いお魚たちがこつちを眺めている。フィリピンの中でも、少し違った外国の雰囲気味わえる、モアルボアルへ行ってみよう！

MAP
CLICK!

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2016
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.



不動の人気・ペスカドールの魅力

モアルボアルの代表的なダイビングポイントがペスカドール島。リゾートが建ち並ぶモアルボアルの海岸線からボートで約10分の沖合。海岸線からもはっきりと島の姿を見ることができる。ドロップオフの地形やソフトコーラル&ハードコーラル、そしてマクロの生き物までバランス良く観察、楽しむことができる。まず、エントリーして目に飛び込んでくるのが、豊かなサンゴ礁。そのトップリーフの幅が狭いので、メラネシアンアンティースやパープルビューティー、カブラヤズメダイなどがごちゃり凝縮されて群れている。特に人気のサウス側のポイントは、竜宮城のような賑やかさを備えている。ドロップオフの水深を少し落とすと、ピンク色のソフトコーラルが群棲し、そこにメラネシアンアンティースが群れてる。そのソフトコーラル畑も半端なく、永遠と続いている感じ。そして、少し水深を上げると、またパープルビューティーやカブラヤズメダイが乱舞する棚上に顔を出す。なんとも贅沢なポイントである。今回、雨の後と言うことで、水面近くにプランクトンが発生し、それを捕食するために、パープルビューティーがサンゴから離れて泳いでいた。その姿がまた鮮やかで美しかった。ペスカドール島は潮通しが良いので、バラクーダ、ホシカイワリ、イソマグロ、ヨコシマサワラなどが見られることも多い。マクロの生き物は、フチドリハナダイ、スジハナ、スミレナガハナダイなどのハナダイが多い。クマドリカエルアンコウ、ロボコンなどの甲殻類、フィリピンブレニーが見られる。



Moalboal
モアルボアル **philippines**
Travel



tsumi-shima
ダイバーの夢をつまみあげていく島





イワシではなく、ミズンだった！

今回、お世話になったチキチダイバーズの数軒とりのリゾート、カバナフロント前に、モアルボアルの代名詞となってお魚が群れている。約10年前からダイビング雑誌などで、「イワシ玉」などと表現されていたが、実は沖縄などによくいる「ミズン」というお魚だった。また「ミズン」だけではなく、アジの一種も大きな群れで泳いでいる。かつては漁の対象となったこともあり、数を激減させたこともあったが、今は保護されていて、通年その凄いの光景に出会うことができる。水深5m～15mくらいの間に何千万匹の規模で群れ、まるで大きなうねりのように、また竜のようなイメージで形作っていく。群れ

の下に潜り込むと真っ暗な空間となり、群れに亀裂が生じることで、光が海底に届き始める。その群れに捕食魚であるホシカイワリ、ニジョウサバ、ギンガメアジ、水面からはオキザヨリが狙っている。時にはニタリザメもやってくると言う。いつか見てみたい。もちろん1ダイブ、ミズンの魚群を眺めているだけでも十分に面白いが、このポイントでは、オオモンカエルアンコウやタイマイ、アオウミガメなども頻繁に見られる。



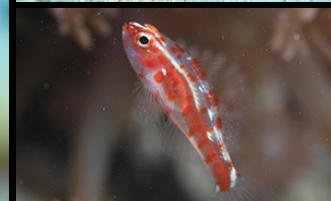
マクロ生き物の宝庫 「ゴビーポイント」



Moalboal
モアルボアル **philippines**
Travel

ゴビーⅡ

もう少し内湾より移動したポイントで、同じく生物観察ができる良ポイント、スロープの砂地には、ゴールドスベックジョーフィッシュ、リングアイジョーフィッシュの2種類を見ることができる。今回は、ハナイカが出現。2匹に雌雄が交接するかな？と観察していたけど、なかなか上手くはいかない…（笑）。深度を上げると、テールスポットゴビー、カニハゼなどを見て、ボート下の浅場では、ギンガハゼ、レッドシュリンプマージンゴビー、クジャクスズメダイ、スパインチークアネモネフィッシュなどが見られた。



ゴビーⅢ

ボートで南へ約20分、非常に内湾的なポイントで、浅瀬からスロープ状に白い砂地が広がる。水深が深くなるとシルトの環境となり、様々な環境に適応した生き物を観察できる。水深30mの根には、アカオビハナダイが群れている。取材用に撮影していると中型のハタが、1匹のアカオビハナダイを咥えた。なかなか興味深いシーンだった。そして、ブラックベリーゴビーや内湾形のもエギハゼなどを観察撮影。少し深度を上げて、ブルーバードリボンゴビー、時にはオニツノハゼなどのレアな種類も見つかる。更に深度を上げて、スバングルドゴビーの雌雄。つぶらサイズのニュードウハゼ。ダイバーに人気のトオアカクマノミなどご対面。浅場では、ムーンスコットゴビー。レッドスポットブレニーなどをよく見かける。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつまみつけていく





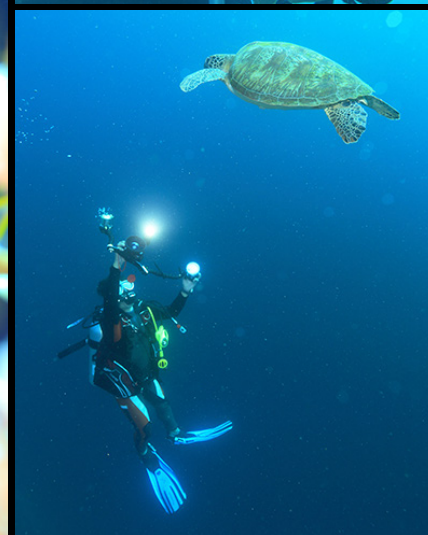
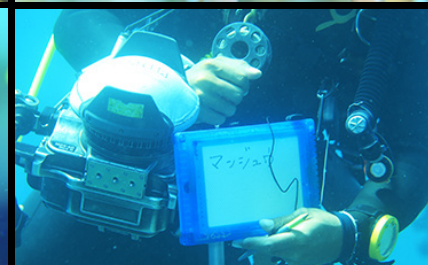
Moalboal
モアルボアル **philippines**
Travel

海に続く
空間 & 笑顔



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島





Moalboal

モアルボアル **philippines**
Travel

ガイドさんにも人気の トンゴサンクチャリ

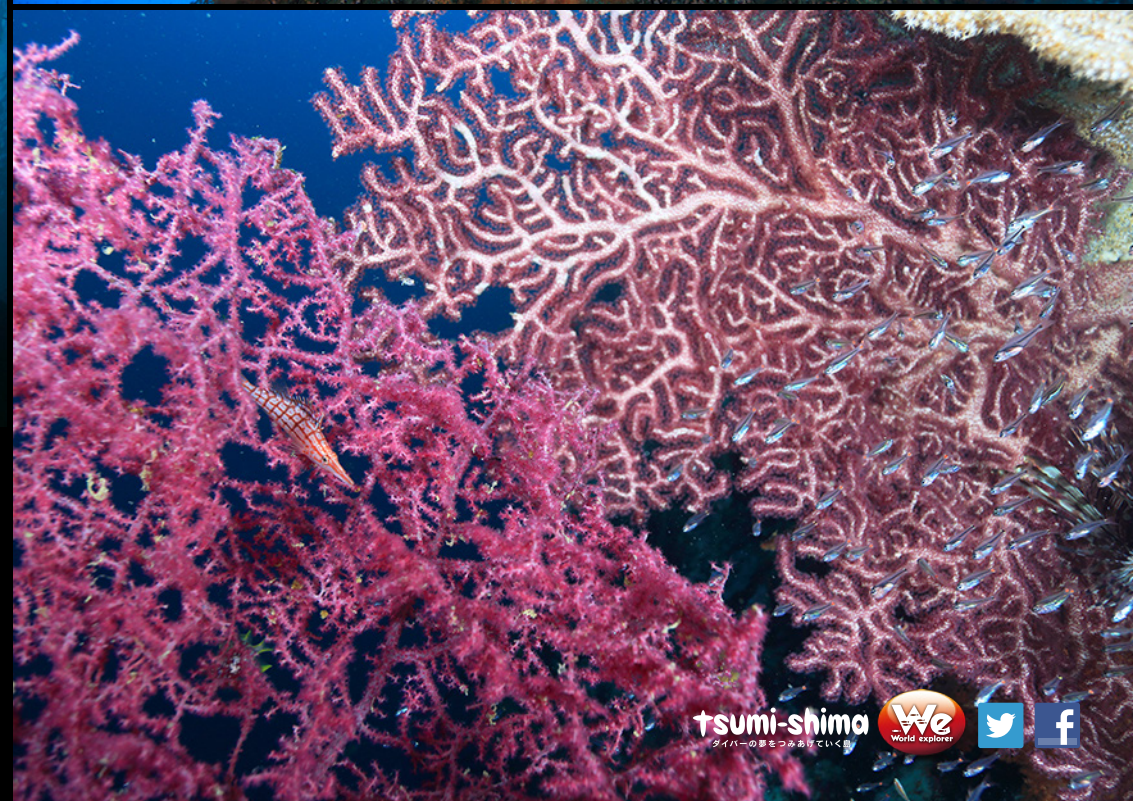
リゾートが並ぶ海岸線の前のポイントで、ボートで約 15 分。
モアルボアルは、ベスカドール島やミズンの群れが有名だが、
実は、この辺りのポイントがすごぶる面白く、実は現地ガイド
陣にも人気。まず、浅瀬にはバリエーション豊富なサンゴが続
き、その上には、カラフルなスズメダイが群れて、夢色の景色
がある。その上の中層、水面下にはメアジや国魚であるサバヒー
が群れる。リーフを流していくと、アオウミガメやハダカハオ
コゼ、コンビクトブレニーやツバメウオなどの群れにも見え、
何かと次から次へと現れてくれるので、心がウキウキとする。
取材中は透明度があまり良くないとガイド陣が心配していた
が、いやいや透明度も気にならないほど楽しむことができた。





あまりの面白さに驚いた！ トンギータ

トンゴサンクチャリの隣のポイントで、私も初めてじっくりと潜った。オーナーガイドの勝さんが、どうしてもこのクダゴンベは見て欲しい、と推すしてくるので、「それならば…」という感じでエントリー。最初に水深 20m まで降りていくと、そこに大きなウミウチワが、紫色の艶やかな姿体が、ドロップオフで垂直に立っている。よく見ると、赤いガラス細工のようなクダゴンベがいる。夢中になって撮影を始める。そのウミウチワには、ハナミノカサゴやスズメダイの仲間もいる。「もうここだけで1ダイブできる！」と思いながら、壁に張り付いて撮影していた。少し後ろ髪を引かれながら、同じ深度のまま移動していくと、驚いたのがベスカドール島の少し深場にあったソフトコーラルが群棲していた。なんと素敵な景色なんだ、と驚きながら眺め、撮影した。それから浅場に戻り、変わらず豊かなサンゴ礁を眺めながらエキジットした。



ニシキテグリの 放精放卵を見に行こう！

夕方、5時前後から始まるサンセットでニシキテグリの放精放卵をコンスタントに見ることができる。ボートで5、6分のタリサイというポイント。水深5mのサンゴのがれ場が彼らの恋の場所となる。ほのかな明かりを当てて観察するとペアになったニシキテグりがサンゴから泳ぎ上がり、ある程度の高さに達すると、パッと離れ放精放卵を行う。ニシキテグரி自体に、出会える確率は98%。放精放卵が見られるのは、約70~80%。実は大人気のイベントで、簡単に見れる生態観察に感動するゲストも多い。カメラ派ダイバーも、是非、その瞬間を撮影したいと、ニシキテグリの放精放卵を目的にやってくるゲストもいる。年中行われている。

オスロブに ジンベイザメに会いに行こう！

チキチキダイバーズを、朝6時に出発し、車で1時間半の移動。ジンベイザメで有名になった町、オスロブに向かう。ビーチダイブで水深6mくらいからジンベイが出現。多い時には8匹ほどが代わる代わる出てくるので、避けるのが大変。餌付けされているジンベイザメなので、色んな角度からジンベイを楽しめる。上手く撮れなくても何度でも撮影できるので、カメラの初心者でも良い写真が撮れるはず。ジンベイダイブは、午前中で終了するので、午後からはモアルボアルでのダイビングを楽しむことができる。

ガイドさんが教えてくれるお薦めレストラン！

ランタウ

人気の多国籍料理。メイン通りに面するパナグサマビーチに面した建物の2階にあり、夕食時間に行けば、美しい夕焼けを眺めながらビールで乾杯できる。お薦めのメニューは、フィリピン料理のキニラウ（海鮮のマリネ）やタイ料理のチキングリーン、ココナッツミルクを使用したイエローカレーが人気。また、他では食べられないエビを野菜で包んだシュリンプロールも是非！



イタリアン・ラストフィリングステーション

パナグサマビーチの端、奥まったところにある、落ち着いた雰囲気のある隠れ家的レストラン。人気は、石釜で焼く各種のピザ。外側はカリカリ、中側はふくつくらとかなり本格的で美味しい。フィリピンは生野菜を食べる習慣がないので、自家製ハムを使ったサラダは、特に女性に好まれる。また、蒸かしたジャガイモを、ヨーグルトを付けて食べる1品もお薦め。



チリバー

ランタウの向かいある海沿いに面したブルーバーを備えたレストラン。パナグサマビーチの中でもかなり目立つお店。昨年からは新しいマネージャーになり、お料理の品がパワーアップ。これまでよりも料理が本格的になり、メニューも豊富になった。基本的にジャンクフードがメインだが、肉料理など、ヨーロッパアンサイズでがっつり食べたい人向け。ヨーロッパ人も多く、いつもゲストで混んでいる。

チキチキダイバーズ

日本人経営のダイビングセンター。ガイドはリサさん、ゆきさん、日本語も話せるユナスの3名。初日のダイビングは日本人が担当できるようにアレンジされ、言葉の心配もない。緑を大切にした敷地内は、のんびり。ブリーフィングや休憩ができる砂地のダイニングは太陽が燦々と注ぎ込みキラキラとしている。ダイビングセンターの前がすぐにボートの発着場になって、無駄な移動がないのが便利。基本的なダイブスケジュールは、午前2ダイブ、午後1ダイブ。1グループは最大6名のゲストだが、通常はそれよりも少ない。



Moalboal
モアルボアル **philippines**
Travel

ガイサノグランドモール

モアルボアルの町中、(チキチキダイバーズからバイクで約10分)にあるショッピングモール。ローカルのお菓子やビール、お土産を購入するために、アフターダイブや最終日に行くゲストが多い。パナグサマビーチには、そのような現地の人の日常を感じるようなモールなどがないので、足を延ばしてみるのも良いかも。行きたい方は、ダイビングセンターで、トライシクルの手配もしてもらえる。



プルメリア

チキチキダイバーズ経営のリゾート。海の目の前にあり、かつ、ショップの隣に位置しているので、ダイビングにはとても便利。豪華なリゾートではないが、ダイバーに使い易いように工夫されている。部屋数が全5部屋。ツインベッドルームが3部屋、1キングサイズベッド+1セミダブルベッドルームが2部屋(ベランダ付き)。



シーズン

4、5、6月がベストシーズン。北風が、南風になる合間のシーズンなので、水面に顔が映るくらい波が穏やか。第2のベストシーズンは、10、11月。南風が北風になるシーズン。北風は、時折、白波が立ち、北のポイントに行き辛くなる。南風が吹くと、ゴビーなどの南のポイントに行き難い。潜れないわけではない。